

試し読み

手ぬぐい慕情  
—私本手拭蒐集録—

知古文庫

当ファイルを許可無く印刷またはインターネットを介して  
第三者へ配布することを禁じます。

私本手拭蒐集録

知古文庫・刊



ただ

誰得?!

物欲

に身を任せ

買った手ぬぐいを並べただけの本

手

ぬ

ぐ

く

私本手拭蒐集録

知古文庫・刊



慕情

## まえがき

断捨離という言葉を批判したい。

もう十年以上前になる。以前働いていた職場の同僚から手ぬぐいの魅力を聞かされた。彼女は前職、アパレル関係に勤めていて、布関係に詳しくなり、手ぬぐいが好きになっただけ。生地の種類や染色について聞かせてもらった。

旅行をすると、各地のお土産屋には必ずといっていいほど手ぬぐいが置いてある。昨今のエコの風潮や、ナチュラルリズムの流れからも手ぬぐいは人気で、都心の雑貨店でもよく見かける。

最初は、その同僚に「珍しいものを手に入れ、見せびらかしてやろう」とか、「手頃なお土産にいいな」なんて気持ちだった。それが、買ってみると手放すのが惜しくなる。使っていると馴染んでくる。そして、見かけると欲しくなりつい手がのびてしまう……

もともと、ものを作るのが好きだ。印刷関係の仕事をしていることもあり、手ぬぐいは紙の印刷とはまた違うが、無地のものに色を乗せる、その行程は通ずるものがある。図案としても、製品としてもおもしろかった。

正直言うと、それまで私はハンカチも持たない、お手洗いのあとはズボンの端でチョイチョいとぬぐう、まあ不衛生なヤツだった。手ぬぐいを集め

はじめてから、外出時につねに持ち歩くようになったし、家を出るときに、その日の気分で柄を選ぶ……そんなルーチンが楽しくなった。

このたび、ふと思い立って、蒐集している手ぬぐいを整理してみようと思った。そして、なにかにまとめることができれば、と本にした。

この本を作るにあたり、これまでに出会った手ぬぐいをあらためて一枚一枚撮影した。見返すと、旅先で出会ったときの記憶、イベントの記憶、お店の記憶……そのとき見た光景、感じた心情が呼び起こされた。すっかり忘れてしまっていた場所を、手ぬぐいを見て思い出すこともあった。

記憶は形に残らない。どんなに鮮やかな記憶でも時間が流れたら……あるいは脳になにかの病気でも患ったら……我思う故に我有り、とて怪しからぬ。

手ぬぐいは触媒だ。手ぬぐいといわず、愛着を持ったものには記憶を宿すことができる。記憶が宿れば、ものは、もの以上の、生き生きとした存在になることができる。あたかも生きていくかのように。ひとはそうやって、ものを愛し、慈しんできた。曖昧な記憶というものをものへ託し、思い出を伝え、そして、あらたな物語を紡いでいった。ひとが生きていくために、ものが生活とともに増えていくのは当然なのだ。

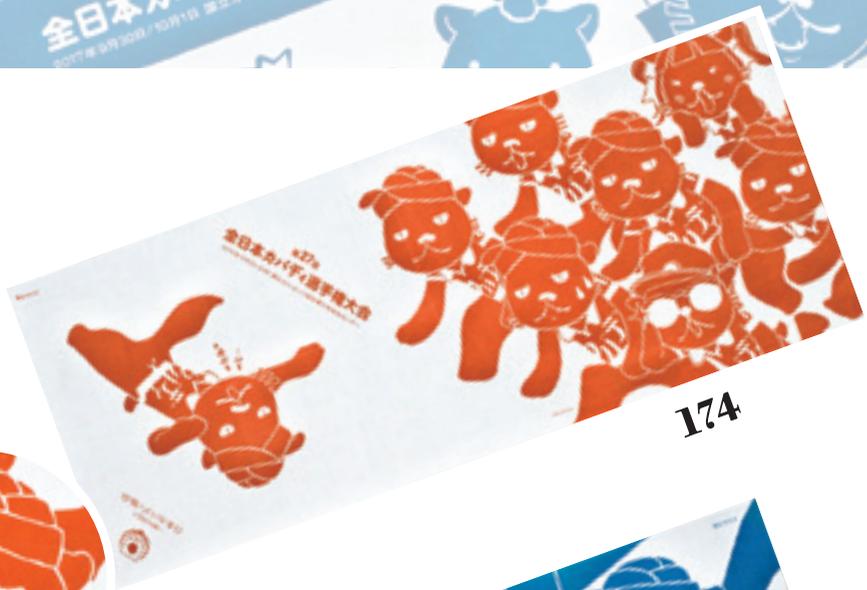
だから私は欲しがり続けたい。物欲を否定しない。欲しがります、欲しいんだもの。物欲万歳。

## chapter 4

---

### いただきもの

手ぬぐいが好きなことを  
知ってくれている知人から、  
いただきものをすることもある。  
いつもは自分の趣味に  
かなうものを集めるのだけど、  
人からいただくものは、  
自分が選ばないような柄があり、  
また、おもしろい。  
この章ではいただきものの手ぬぐいと、  
著者が制作に関わったものを  
ご紹介します。



174



175



176



- 174** ● 第27回『全日本カバディ選手権大会』の手ぬぐい。著者がイラスト・デザインを担当。だんだん群像化していく。
- 175** ● 第28回『全日本カバディ選手権大会』の手ぬぐい。著者がイラスト・デザインを担当。ちなみに点数をめくっているのは、知的な戦略を得意としている「ガリ勉猫」選手。
- 176** ● 第29回『全日本カバディ選手権大会』の手ぬぐい。著者がイラスト・デザインを担当。個人的には、下のほうで応援している猫たちを見てほしい。



オリジナル手ぬぐいも  
作っちゃいました

**文字と格闘する子 手ぬぐい**

寸法 約30cm×90cm  
シルクスクリーン印刷の  
ハンドメイド作品となります。